

国際環境協力の戦略性の事例(自国の産業育成という観点から)

**事例 1: 中国における環境モニタリング機器市場での戦略**

中国は、主にアメリカ、日本、及び欧州から環境モニタリング機器を輸入している。日本企業は中国でのビジネス促進に非常に積極的であり、通常ソフトローンやグラントという形で政府からの資金支援を受けている。欧州の国々は、中国での自国企業のビジネスを支援するために、譲許的融資やその他のタイド支援をつかっている。具体的な事例としては、以下がある。

自国モニタリング機器製造業の中国進出支援

国名	支援内容	戦略性
フランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>北京の大気汚染モニタリングシステムへの 500 万フラン (1 フラン 21 円とすると 105 億円) の寄付 (モニタリングセンター 1 箇所、モニタリングステーション 16 箇所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリングセンター及びステーションには、フランス製機器を整備 機器のメンテナンス、部品交換、機器の更新における当該メーカーの優位性を確保</li> </ul>
ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>山東省東営市の補助モニタリングステーション 3 箇所の寄付</li> <li>重慶市の自動測定モニタリングステーションに対する 500 万ドル (1 ドル 105 円とすると 525 億円) のソフトローンの供与</li> </ul>	同上

参考資料：カナダ工業省ホームページ “Market Research Report – Environmental Monitoring Equipment & Analytical Instruments”

<http://strategis.ic.gc.ca/epic/internet/inimr-ri.nsf/en/gr111632e.html>

**事例 2: 中国における排水処理施設市場**

中国の排水処理施設市場において活発な活動を行っているのは、日本、ドイツ、イタリア、フランス、オーストラリア企業である。多くの新規参入企業は、自国政府からの低利融資という支援を受けて市場に参入している。複数の欧州企業は、中国の地方自治体が彼らの製品に慣れるよう、排水処理施設を寄贈している。この市場参入戦略は、地域での親善度を高めるだけでなく、この分野における将来の売上を助けるものとなっている。

JBIC のローンの 30% は日本企業が受注しているが、入札は全ての企業に開かれたものとなっている。ドイツ、オーストラリア、カナダ、イギリス、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンも中国に対する二国間融資や無償資金援助を行っているが、これらの援助は自国企業の中国市場への参入支援を意図している。

参考資料：カナダ工業省ホームページ “Market Research Report – Waste Water Treatment Technologies”

<http://strategis.gc.ca/epic/internet/inimr-ri.nsf/en/gr-71221e.html>